

9番（山口 一成君） 私は、学習指導要領が改定されますので、その1点だけを教育長に質問いたします。

小学校は今年の4月から、中学校は来年から実施されるわけですが、学習指導要領については、過去、私は2回、質問をしております。現教育長になってからは1回でありますけれども、前教育長に1回質問いたしました。その時は、ゆとり教育の問題について、特に質問いたしました。

ゆとり教育が転換されて、今度の学習指導要領になったわけですが、ちょうど30年ぶりに学習指導要領が改められ、今年4月から実施されることになったわけですが、小学校6年間で学ぶ教科書の量は、全教科書で6000ページになり、この厚さになるわけですが（山口議員資料を示す）。今までよりも約25%増えております。特に算数については33%、理科については37%増であります。5年生からは、今年から英語が入ってくるわけですが。

これに対して週の授業時間数は1・2年生で1週間に2時限、3～6年生は1時限増えるわけですが。6年間でちょうど10%増になります。移行期間が2009年からあります。ですから準備は、おさおさ怠りないと思っておりますけれども、教員の負担増ははっきりしておると思っております。また、時間割編成も、学校現場では大変苦慮してみえるのではないかと、このように考えます。

そのことについて、教育長の対応をお聞かせ願いたいと思っております。

よろしく願いいたします。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 山口議員の新学習指導要領全面実施への対応について、お答えをいたします。

ご承知のとおり、小学校ではこの4月から、中学校は来年の4月から、新学習指導要領が全面実施となります。

学習指導要領改定の基本的考え方について、簡単に触れさせていただきますと、現行の学習指導要領の「生きる力」をはぐくむという理念は引き継ぎながら、教育基本法や学校教育法の改正なども踏まえ、「生きる力」をはぐくむという理念を実現するための具体的な手だてを確立する観点から、学習指導要領が改定をされました。

その基本といたしまして、基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に対応し、解決する力、また自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性と、そして、たくましく生きるための健康や体力をバランスよく育てることを重視しております。

教育内容の主な改善事項といたしましては、言語活動の充実、理数教育の充実、外国語教育の充実、伝統や文化に関する教育の充実、体験活動の充実、

道徳教育の充実、 健やかな体の育成、 社会の進展に対応した教育の推進、 などが挙げられます。

また、教育課程の枠組みにつきましては、小学校では、現行の教科等に「外国語活動」を追加するとともに、国語、社会、算数、理科等の授業時数を、6学年合わせて350時間程度増加させる一方、総合的な学習の時間は週1コマ程度縮減させ、結果として、総授業時数は1・2年生で週2コマ、3年生から6年生で週1コマ増加することになっております。

一方、中学校では、教科等の構成は現行のままとし、国語、社会、数学、理科等で、3学年合わせて400時間程度増加させる反面、選択教科を標準授業時間から外すとともに、総合的な学習の時間を縮減し、結果として、総授業時数が各学年週1コマ増加することになります。

これらへの対応といたしましては、東員町全体では、平成20年度からの第二次学力向上プランにより、新学習指導要領ではぐくむべき学力の重要な3つの要素、基礎的な知識・技能をしっかりと身につけること、知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむこと、学習に取り組む意欲について、具体的な研究・実践を開始しております。

また、小学校では、移行措置期間から5・6年生の「外国語活動」を実施しておりますし、学校への支援としては、小学校専属のALTを配置しております。

授業時数の増加に対しましては、昨年度から移行措置と合わせて、段階的に週時数を増やし、本年度は来年度からの全面実施時と同じ授業時数で、既に教育課程を編成しております。

中学校では段階的に移行措置を進め、平成24年度の全面実施に備えているところでございます。

一方、新学習指導要領に伴う教育条件整備といたしましては、一昨年度から、移行措置に伴う理科備品等の教材整備を行ってまいりましたし、ICT関係といたしましては、教育用パソコンや電子黒板、デジタルテレビなども整備をいたしたところでございます。

また、小学校につきましては、来年度から新しい教科書を使用することに伴い、指導に必要な指導書や指導教材等を整備するための予算を、当初予算に計上させていただいているところでございます。

中学校につきましては、平成24年度に同様の整備をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくご理解のほど、お願いを申し上げます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君）          山口議員。

9番（山口 一成君）          ただいまの答弁の中では、移行段階で、いろいろと対応されてみえるということがよくわかりました。けれども小学校1年生では、現

在年間782時間が850時間に増えるわけです。小学2年生では840時間が910時間に増えるんです。小学3年生から6年生までは、3年生が910時間が945時間、4・5・6年生は945時間が980時間となるわけですが、子どもの負担増をどう考えてみえるか。再度答弁をお願いいたします。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） お答えをいたします。

週2コマ増えるということですので、私どもは昨年度から1コマ増やしました。それから本年度2コマを増やしました。この増やす時間等も、学校の校長先生たちとも相談をしながら、どのような形で増やしていくかということも考えながら、今進めております。現在2コマを増やしたことによって、大幅な負担とかというのは、お聞きはしておりません。最初のころは、そういうところがあったかもわかりませんが、新学習指導要領の時間数にのっとなって、東員町も進めていきたいなと思っております。

以上です。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 先ほど答弁がありましたように、移行の段階で対応されてみえるということを知って安心していただきました。

再度質問いたしますが、始業時間を早めるというようなことであるとか、休み時間の短縮であるとか、朝の読書時間のカットであるとか、7時限目をつくるというようなことは考えられるのか。子どもが体力的に疲れが出ると、私は考えるわけですが、過密スケジュールによる負担の増加で、学力格差が生じることも心配するわけでございます。再度このことについて、答弁をお願いいたします。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 山口議員がおっしゃられました、そのことで学力格差が起こるとというのは、少しとらえ方が違うのではないかなと思っております。学力を保障するために、いろんな場面で、すべての子どもたちに条件を与えるということが、私は大切であるなと思っております。

朝の時間とか、休み時間とか、朝読書をカットするとか、それぞれの学校におきまして、いろんな創意工夫をしていただいて、子どもたちに多くの休み時間を極端に減らすとか、7時限目の授業を毎日ほど行うというようなことはないと思います。それぞれの学校が、子どもたちの状態をきちんと把握しながら、それぞれの学校の子どもたちの状態に合わせて、対応をしていただいていると思っております。

以上です。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番(山口 一成君) 各学校での対応ということについては、大変よくわかりました。子どもたちの体力、もちろん学力、そのことについては、特に東員町は全国的にも優れておるといふことの報告を、先の質問でお聞かせいただきましたので、そこのところは安心しておるわけでございます。

次に、教師のほうに移りたいと思います。

議員の皆さんや教育長には資料をお渡ししてありますので、ご覧ください。

県教育委員会が、昨年10月から11月にかけて、県下の教職員、約1万3,000人ほどに対して調査をいたしました。その回答が85.05%でございます。このことは県下の教職員の満足度調査でございます。

項目は仕事の面、勤務条件、職場環境、この3つに大きく分かれております。仕事の面については8項目、勤務条件については6項目、職場環境についても6項目上がっておるわけでございますが、調査の満足度は5が最高でありまして、5、4、3、2、1というふうに変わっていつておるわけでございますが、特に仕事の面でございます。県下の平均が3.35でございますが、このことについて、どのように考えてみえるかということですが、

その中で特に精神的不安というのが2.8と一番低く、また仕事の配分が2.62というふうに低くなっておるわけですが、勤務条件の中では、総勤務時間というのがあるわけですが、それがわずかに2.11であります。

このようなことを考えたり、職場の環境については、特にホッとできる場所が2.15というふうに低くなっておりますので、仕事、勤務条件、職場環境の3つについて、教育長はどのようにお考えになるか、ご答弁をお願いしたいと思います。

議長(山本 陽一郎君) 岡野教育長。

教育長(岡野 譲治君) いただいたばかりですので、なかなかあれなんですけれども、これは三重県全体の教職員の満足度調査であります。私も東員町の各小中学校は学校経営品質ということに取り組んでおりまして、毎年年度末に教職員のそれぞれの学校の満足度調査を実施しております。ほぼ、ここのと似ているか、少し違うところもあるんですけれども、仕事に対して、学校現場の教職員がやりがいを持っていただいているということは、本当にありがたいなと思っております。東員町の満足度調査におきまして、東員町の教職員がまじめに、いろんなところにひたむきに教育に取り組んでいるということに対しては、本当に敬意を表したいなと思っております。そういう結果も出ております。

次に勤務時間ですけれども、前回もご質問にあったと思います。教職員の勤務時間をどのように縮減していくかというのが大きな課題だと思います。特に小学校の場合には、平均で勤務時間内プラス20~30分オーバーするという状況が多いと思いますけれども、中学校の学校現場におきましては、本当に大変な状況があります。私も毎月、超過勤務の報告等が上がってきておりますけれども、そのこと

をもとにしながら、校長先生に、できる限り早く帰るようにご指導願いたいというような形は伝えておりますけれども、こと一つ、生活指導上の問題等が起こった場合には、中学校の教員は夜も回り、いろんな家庭訪問とかをしている実態があります。何とかしたいなというふうに、いつも思っております。

ホッとできる場所ですけれども、休憩室のことを指していると思います。東員町では、学校を耐震等も含めながら改修した時に、休憩室を、以前と比べたら十分に改修して確保してもらったんですけども、難点が一つありまして、男女一緒の休憩室になっております。現場からは男女別々の休憩室にしてほしいとか、その他いろんなことがありますけれども、なかなか学校現場におりますと、1日の中で休憩室でホッとするというような場面といいますか、勤務状況ではないのも把握しております。何とかきちんとした休憩・休息をとれるようにということも考えながら、今後進めていきたいなと思っております。

今、私が思っているところはそういうところでございます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君）          山口議員。

9番（山口 一成君）          仕事のやりがいについては、小中学校、県立高校、年齢、性別については第一位となっております。ということは、大変よいということでございます。教師としての、子どもや生徒に対する仕事のやりがいが第一位であるということは大変いいことだと、私はそのように思っております。

勤務条件、今言われましたけれども、これがすべてにおいて低いわけですが、今お話がありましたように、中学校においては大変えらいという話でございました。昨日、中学校の卒業式に参加させていただきました。本当に学校改正といいますが、そういうものが大変すばらしいなということを思いました。けれどもその影には、厳しい労働条件の中で、職員が、一人一人の誇りや仲間との連帯の支えによって、日々活動されてみえるということが伺えました。また、多くのストレスを抱えておるといことも、現場の一面として聞いております。

これは、ある学校の自己評価表というものを昨日いただきました（山口議員資料を示す）。特に先生方の自己評価表というのは、役場の職員皆さんについても参考になるのではないかというふうに思いますので、教育長から、部長会議や課長会議の中で目を通していただくような方法をとっていただきたいと思います。大変分厚いものができておりまして、一人一人が自己評価をしております。けれども本当に謙虚に反省してみえるのか知りませんが、4というのは1人で、あとはほとんど3というような自己評価をしております。

このような自己評価表においても、私は先生方が大変えらいということも考えるわけですが、学校の勤務の先生方の状態から見て、改善できる方向みたいなものは、どのようなことを教育長は考えてみえるのか。

再度、答弁をお願いしたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） 先ほどお示しになりました自己評価表ですけども、どこの学校か、私わかりませんので、実態がどうこうというのはあれですけど、多分ある小学校かなと。

自己評価表につきましては、すべての小中学校で自己評価をし、それを報告するというのが法律に則りまして、そこへ提出されます。内容はそれぞれの学校によって違いますので、あれですけども。

少し見させていただいたのでいけば、多分あの小学校かなと思いますけれども、その小学校だけではなくて、すべての学校で、校長と教職員が面談をしながら、学校経営のことであれ、個人的なことであれ、自己のいろんな教育目標、子どもたちのこと、勤務時間のこととか、すべてのことを相談する時間が年に2回あります。そういう機会を設けております。その中で学校長に対して、こういう条件を整備してほしいとか、私はこういう悩みがあるので、こうこうしてほしいというようなことも、ずっと取り組みをやってもらっております。そういう中から、生の声を聞きながら改善をしていくということ、今後進めていきたいなと思っております。

また、東員町の教育の課題というか、困難性は、過密単学級というものがあります。35人から40人の学級が大変多くあります。ですから私も、その面におきましては、県の定数をいただくような努力を日々やっておりますし、町単独で非常勤講師を認めてもらって、何名かを採用しておりますし、特別支援教育の対象のお子さんの補助に、介助員並びに学習支援員という形で、町単独で採用もさせていただいております。そういうものもトータルしながら、より多くの目で子どもたちを見ていくことが、先生たちの労働改善等につながっていくのではないかなという形で思っております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 山口議員。

9番（山口 一成君） 教育委員会からの指導、それから現場での管理職の指導、そういうような面から改善されつつあるとは私は思いますけれども、35人学級から36人学級、そこらの境のところは町内には大変多いというお話が今ございましたが、そのことが今、先生方の大きい課題だというふうに思っております。

そのことは校舎の建築であるとか、増築であるとか、ほかの特別教室を減らさなければならぬとか、または特別支援学級を併設しておるところは、それをつぶさなくてはならないというような現状にあるということもありますので、町当局のほうで、またその点を次の町長にお伝えしていただくことが大変いいことだと思いますので、よろしく願いいたします。

けれども4月から、まだまだ時間数の問題、体力の問題、大変厳しい状況が私には目に見えるわけですが、東員町の教師は、それを乗り切ってくれるであろうというふうに思います。けれども、乗り切るのにも限界があります。一層のご支援をお願いしたいというふうに私は思うわけですが。

終わりになりますけれども、町長、8年間、福祉・教育の面でご尽力、大変ありがとうございました。特に、とういんアーチをつくっていただきまして、私は大変うれしく思っております。けれどもこれから終わりまで、まだまだ46日間残っておりますので、私たちも一生懸命やります。私がこの8年間の中で本当に思ったことは、アーチをつくっていただいたこと、学童保育に力を注いでいただいたこと、それから二度と戦争はやってはならないという答弁を12月にいただきました。そのことが私の心の中にズシンと残っております。そのことに特に感謝申し上げたいと思っております。

今後の町の将来の設計図はできておりますので、これをどのように活用するかということは、次の町長に付託したいと思っております。

これにて、私の感謝と質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。